

# 株式会社ニツカトー 2023年3月期(第1Q)決算説明資料

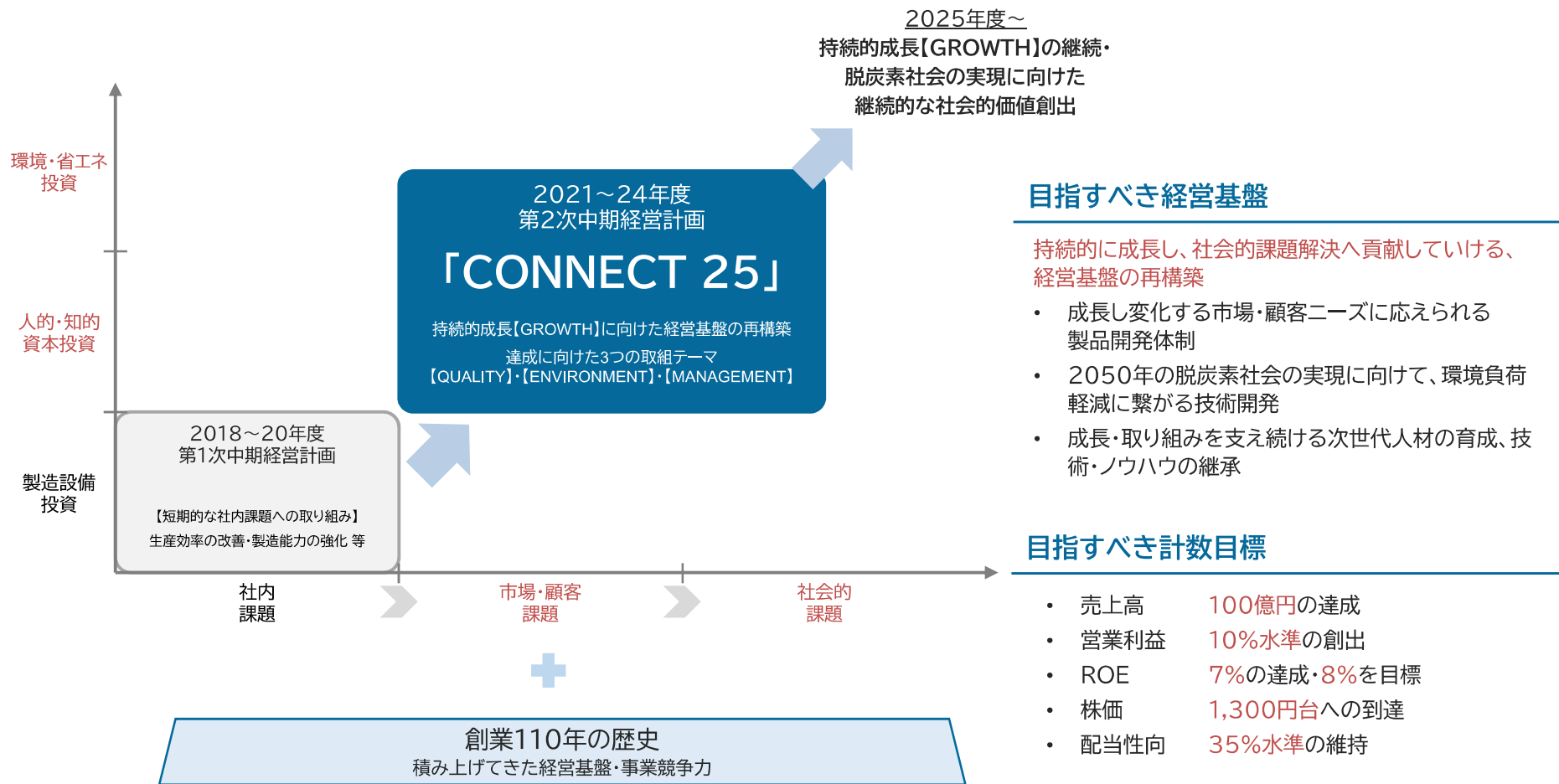
1. 中長期的な戦略について
2. 2023年3月期(第1Q)業績概要
3. 2023年3月期業績予想
4. 事業トピックス

1. 中長期的な戦略について
2. 2023年3月期(第1Q)業績概要
3. 2023年3月期業績予想
4. 事業トピックス

ニッカトーは、創造性に富んだ信頼される商品の提供を通じて科学技術と産業の発展に寄与し、企業の成長と発展を期し、親しまれる経営で社会に貢献する。

# 中期経営計画について

- 当社の存在意義である、「独自素材の提供を通じて、脱炭素社会の実現に貢献する」べく、持続的に成長し、社会的課題の解決に取り組み続けられる経営基盤の再構築期間と位置付け
- 2025年度を新たなスタートとして、中長期の持続的成長に繋げていくために中期経営計画「CONNECT 25」を策定



# 「CONNECT 25」のコンセプト

- 経営基盤の再構築を、【QUALITY】・【ENVIRONMENT】・【MANAGEMENT】の3つの成長ドライバーをテーマに実施
- 当社と事業の持続的成長によって、脱炭素社会の実現・社会的課題の解決に貢献し、時代に必要とされる“Reliable Company”を目指す

## 「CONNECT 25」における目標

持続的に成長し、社会的課題解決へ  
貢献していけるだけの経営基盤の再構築

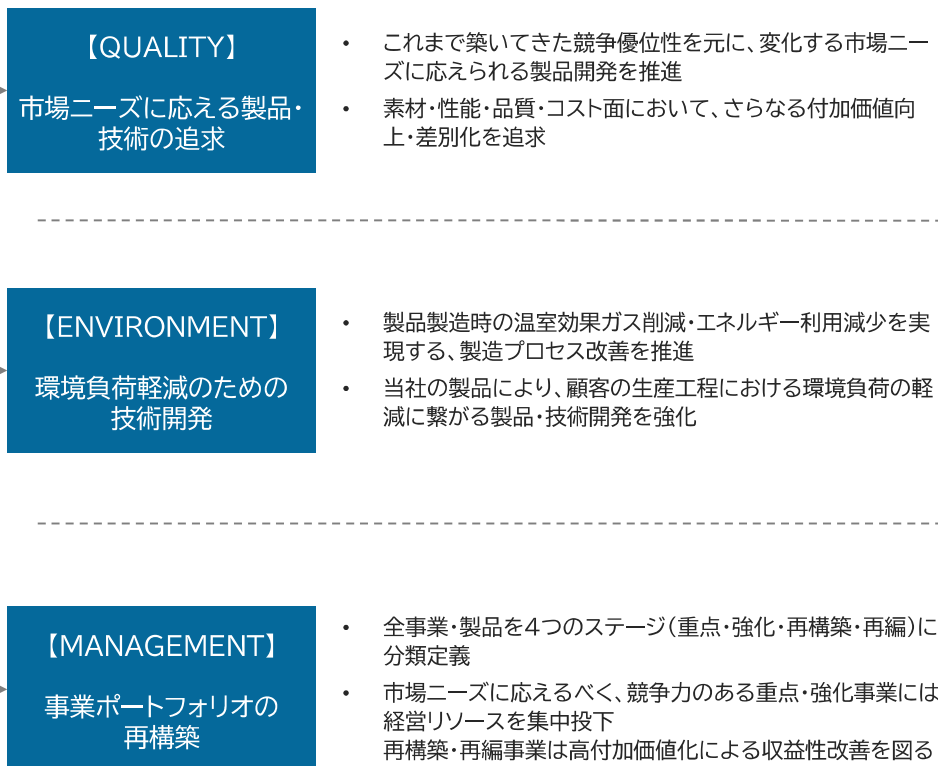
存在意義の確立

経済的価値・社会的価値の創出を通じた  
自社の持続的成長【GROWTH】の達成と、  
脱炭素社会実現への貢献

経営ビジョンの達成

“Reliable Company”  
—時代に必要とされる企業だけが成長する—

## 達成のための3つの成長ドライバー



# サステナビリティ課題への取組方針

ESGの主要テーマ	関連する主なSDGs	当社の取組方針 ～CONNECT25の3つの取組テーマ～	具体的な取組
<p><b>E</b> Environment</p> <p>脱炭素社会の実現 気候変動・温暖化対策</p>		<p><b>ENVIRONMENT</b> 環境負荷低減のための技術開発 - 製品製造時の環境負荷低減 - 生産工程の環境負荷低減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備導入・生産改善を通じたエネルギー利用効率化・GHG排出量削減</li> <li>工業排水の循環利用技術の開発</li> <li>不良品、使用済品のリサイクル・リユース体制の構築</li> <li>クリーンエネルギー対応製品の開発</li> </ul>
<p>サプライチェーン における信頼構築</p>		<p><b>QUALITY</b> 市場ニーズに応える製品・技術の追求</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・技術知識の向上、顧客ニーズ深堀の強化</li> <li>産学連携による環境技術開発・ビジネス創造</li> <li>調達リスク低減、品質保証体制強化による製品供給の安定化</li> </ul>
<p><b>S</b> Social</p> <p>雇用と人材育成 知財開発・管理体制</p>		<p><b>QUALITY</b> - 人材採用・育成、評価方法の見直し - 100年の歴史で培われてきた職人技術・ノウハウの継承 - 知財専門人材の登用・育成、知財管理強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職人保有の知見・技術のシステム化、データ活用に基づく人材育成</li> <li>脱年功序列、若手・女性幹部登用推進</li> <li>求める人材の再定義と採用人材の質の向上、研修の拡充・再整備</li> <li>産学連携・共同開発の強化推進</li> </ul>
<p>地域社会の発展と共生</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域雇用の創出</li> <li>工場周辺地域への配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会における雇用創出</li> <li>周辺地域への配慮、安全確保の推進</li> </ul>
<p><b>G</b> Governance</p> <p>コーポレートガバナンス体制の強化</p>		<p><b>MANAGEMENT</b> コーポレートガバナンス・コードへの対応 最適な事業ポートフォリオの構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーへの情報開示体制の強化、エンゲージメント向上の推進</li> <li>経営リソースの配分見直しと収益性改善</li> </ul>

# 計数目標及び進捗状況

- EV車・5G関連製品を始めとする成長産業での需要増加を確実に捉え、**過去最高水準の売上高100億円**を達成
- セラミックス製品の差別化・競争優位性の追求により収益性を改善、**営業利益率10%超**へ到達し、営業利益も過去最高益創出を図る

百万円	2020年度 実績	2021年度 目標	2021年度 実績	2022年度 修正前目標	2022年度 修正後目標	2023年度 目標	2024年度 目標	増減 2020年度比
売上高 (前期比)	8,655	9,500 (+845)	9,979 (+1,324)	10,000 (+21)	10,000 (+21)	10,200 (+200)	<b>10,800 (+600)</b>	+2,145
営業利益 (%)	363 (4.2%)	900 (9.5%)	972 (9.7%)	970 (9.7%)	700 (7.0%)	1,030 (10.1%)	<b>1,200 (11.1%)</b>	+837 (+6.9%)
経常利益 (%)	440 (5.1%)	920 (9.7%)	1,028 (10.3%)	990 (9.9%)	720 (7.2%)	1,050 (10.3%)	<b>1,200 (11.1%)</b>	+760 (+6.0%)
当期純利益 (%)	275 (3.2%)	630 (6.6%)	672 (6.7%)	680 (6.8%)	500 (5.0%)	720 (7.1%)	<b>820 (7.6%)</b>	+545 (+4.4%)
ROE	2.5%	5.0%	5.8%	6.0%	4.3%	6.2%	<b>7%達成 (8%目標)</b>	+4.5%

- 2022年度(2023年3月期)目標については、エネルギー及び原材料の急激な高騰に伴い、現時点では経営努力によりカバーできる状況にはなく、生産効率の改善や販売価格への転嫁等々、今後足元の状況踏まえ様々な取組みを推し進め、採算改善に努めます。
- 売上高は計画通りといたしますが、利益の状況につきましては、下方修正せざるを得ないものと判断いたしました。2023年度以降につきましては、今後の経済状況や市場環境を踏まえ検討するものとし、計画を据え置きます。



# 計数目標 —セグメント別業績目標—

百万円	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 修正前目標	2022年度 修正後目標	2023年度 目標	2024年度 目標	増減
<b>セラミックス事業</b>							
売上高	6,601	7,620	7,800	→ 7,600	8,000	<b>8,400</b>	+1,799
営業利益 (%)	336 (5.1%)	892 (11.7%)	910 (11.7%)	→ 650 (8.6%)	970 (12.1%)	<b>1,130 (13.5%)</b>	+794 (+8.4%)
<b>エンジニアリング事業</b>							
売上高	2,053	2,358	2,200	→ 2,400	2,200	<b>2,400</b>	+347
営業利益 (%)	27 (1.3%)	80 (3.4%)	60 (2.7%)	→ 50 (2.1%)	60 (2.7%)	<b>70 (2.9%)</b>	+43 (+1.6%)

✓ **セラミックス事業:**

- 成長が見込まれる先端技術産業※の需要拡大に対応し、製品付加価値向上を通じた収益性改善を推進  
(※ EV車・5G関連部品に必須かつ、今後一層の需要増加が見込まれるMLCC(積層セラミックコンデンサ)や、EV車への搭載に向けて開発・実用化が進められている全固体電池 等)

✓ **エンジニアリング事業:**

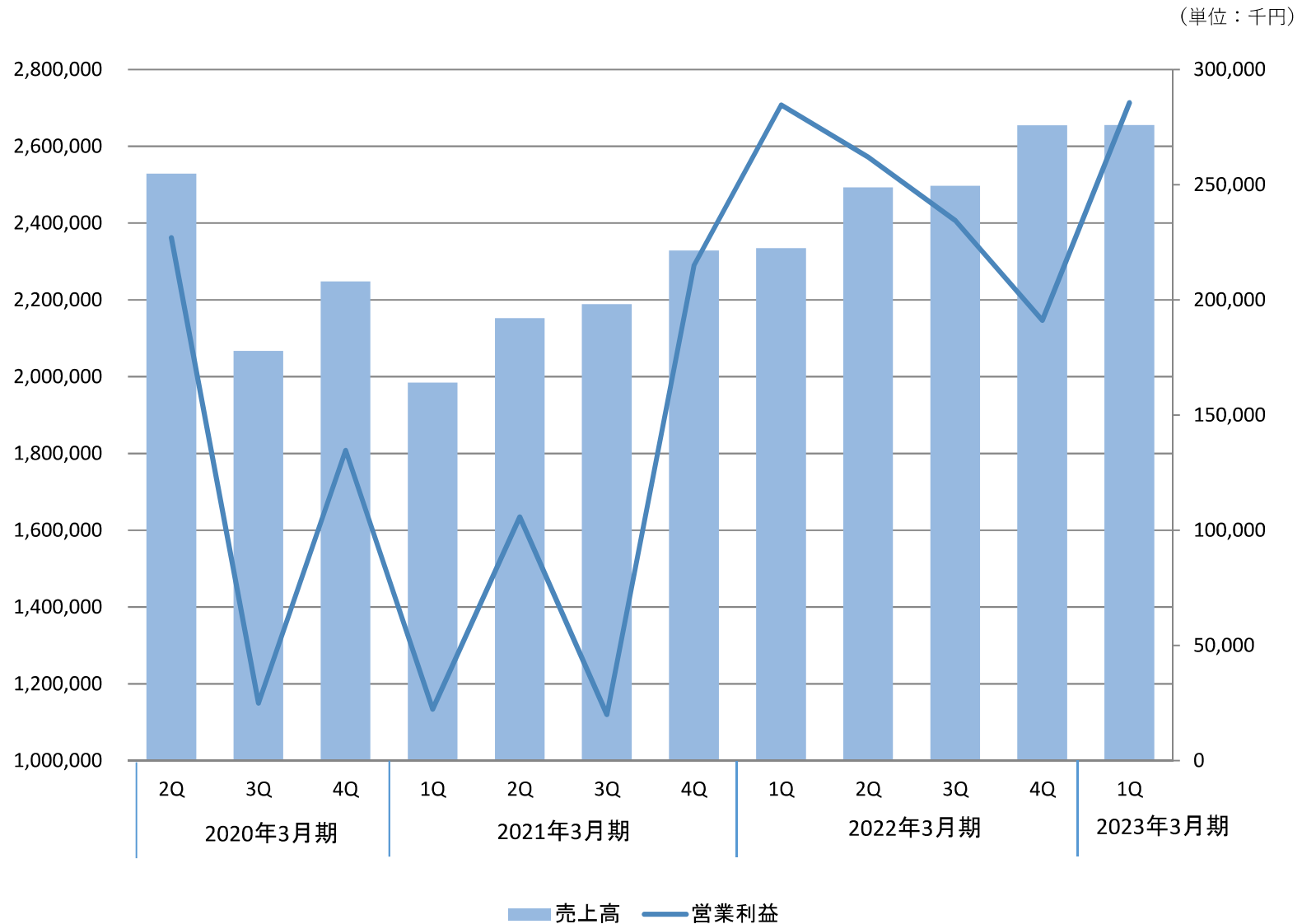
- これまで事業独立した動きとなっていた営業活動から、**セラミックス事業との一体営業・ニーズ発掘を推進し、**先端技術製品の研究開発におけるニーズ取り込みを強化

1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第1Q)業績概要
3. 2023年3月期業績予想
4. 事業トピックス

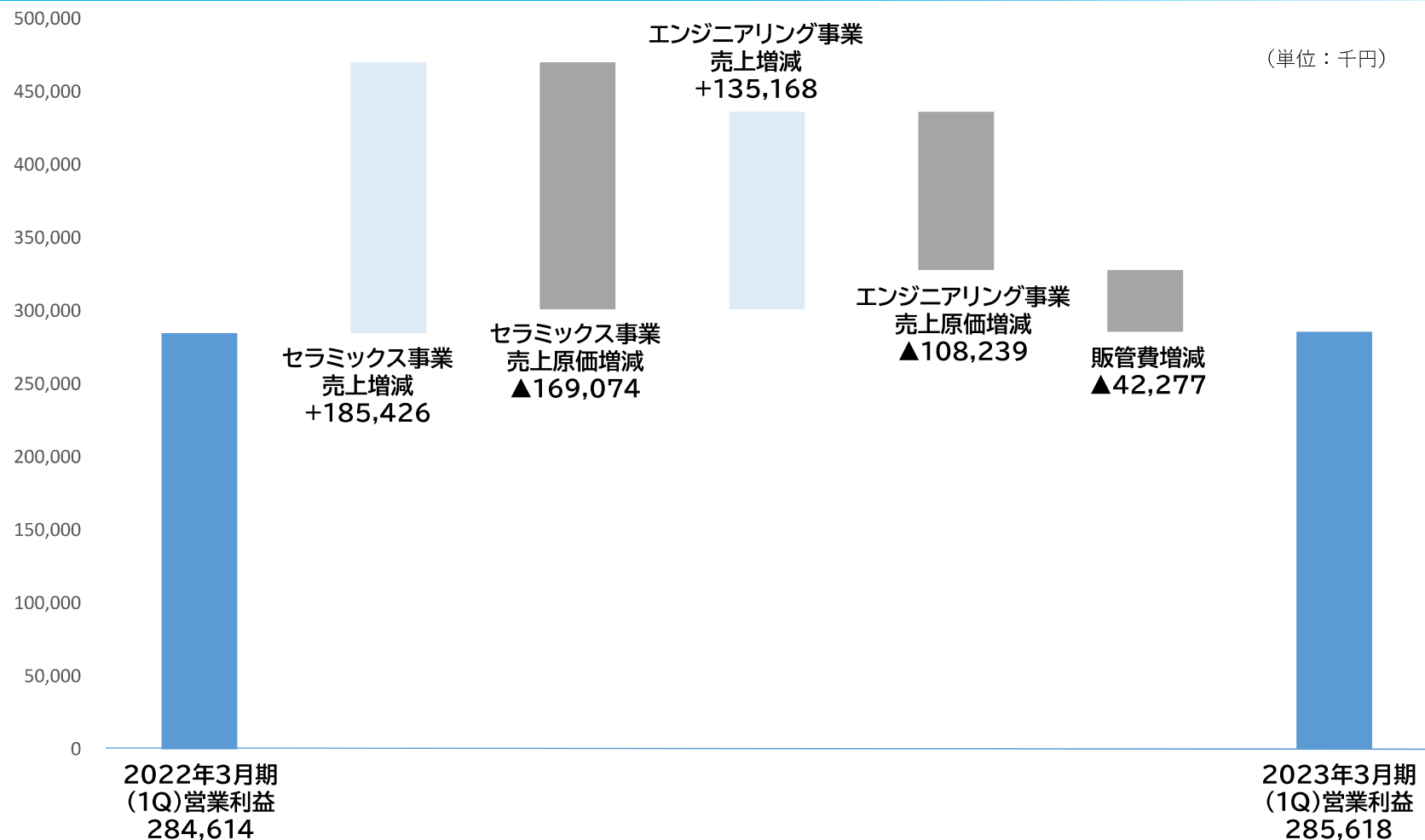
# 経営成績の概要

(単位：千円)	2022年3月期1Q		2023年3月期1Q		対前年		対通期予算	
	実額	売上比	実額	売上比	増減額	増減率	予算	達成率
売上高	2,334,720		2,655,315		320,595	13.7%	10,000,000	26.6%
売上原価	1,729,123	74.1%	2,006,436	75.6%	277,313	16.0%	7,850,000	25.6%
販売費及び一般管理費	320,982	13.7%	363,260	13.7%	42,277	13.2%	1,450,000	25.1%
営業利益	284,614	12.2%	285,618	10.8%	1,004	0.4%	700,000	40.8%
経常利益	306,379	13.1%	312,744	11.8%	6,365	2.1%	720,000	43.4%
当期純利益	212,219	9.1%	218,088	8.2%	5,869	2.8%	500,000	43.6%
研究開発費	47,630	2.0%	53,869	2.0%	6,239	13.1%	-	-
EPS(円)	17.78	-	18.27	-	0.49	-	-	-
ROA(%)	5.4	-	5.3	-	-0.1	-	-	-
ROE(%)	7.4	-	7.4	-	0.0	-	-	-

# 売上高・営業利益推移(四半期毎)



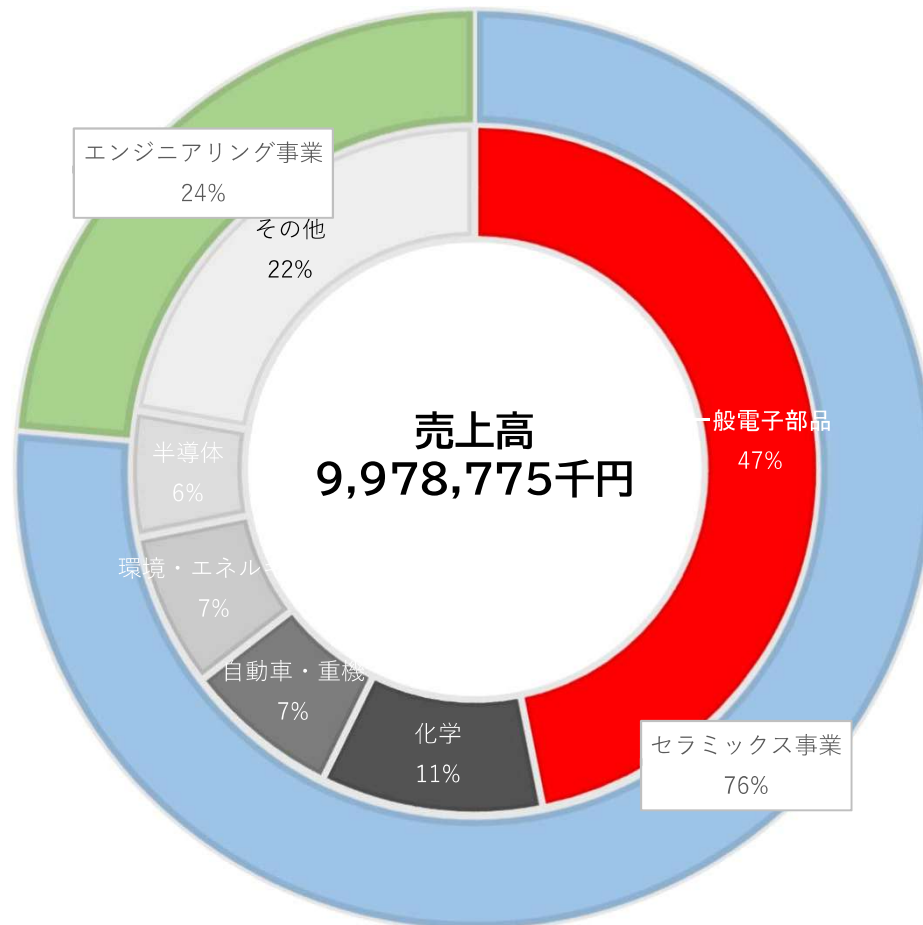
# 営業利益増減要因



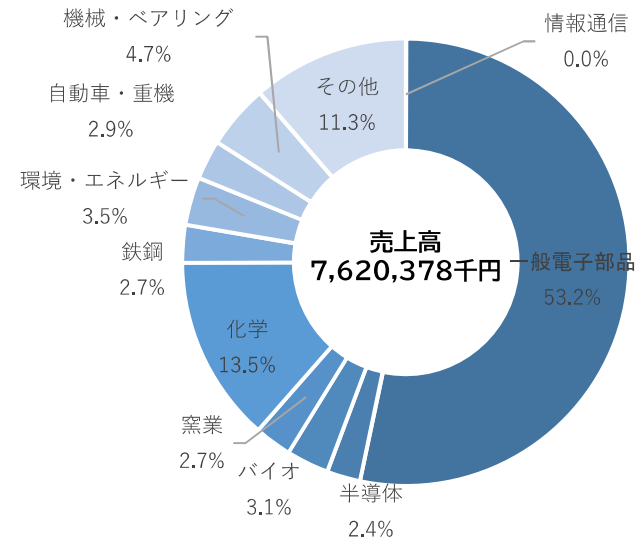
- ✓ ウクライナ情勢の悪化・長期化を受けて、資源・エネルギーのさらなる高騰や影響の長期化が懸念される中、好調な市場環境に支えられセラミックス事業・エンジニアリング事業ともに増収となる。セラミックス事業は原材料の高騰の影響を受けるもエンジニアリング事業の増収効果もあり前年同期比0.4%の増益となる。

# マーケット別構成比

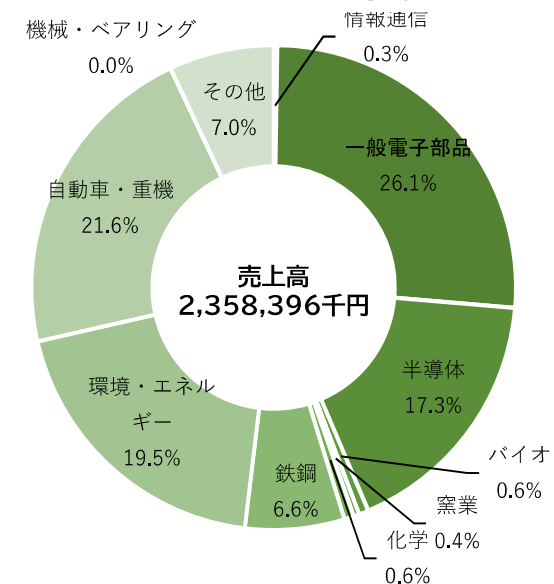
## 全社



## セラミックス事業



## エンジニアリング事業

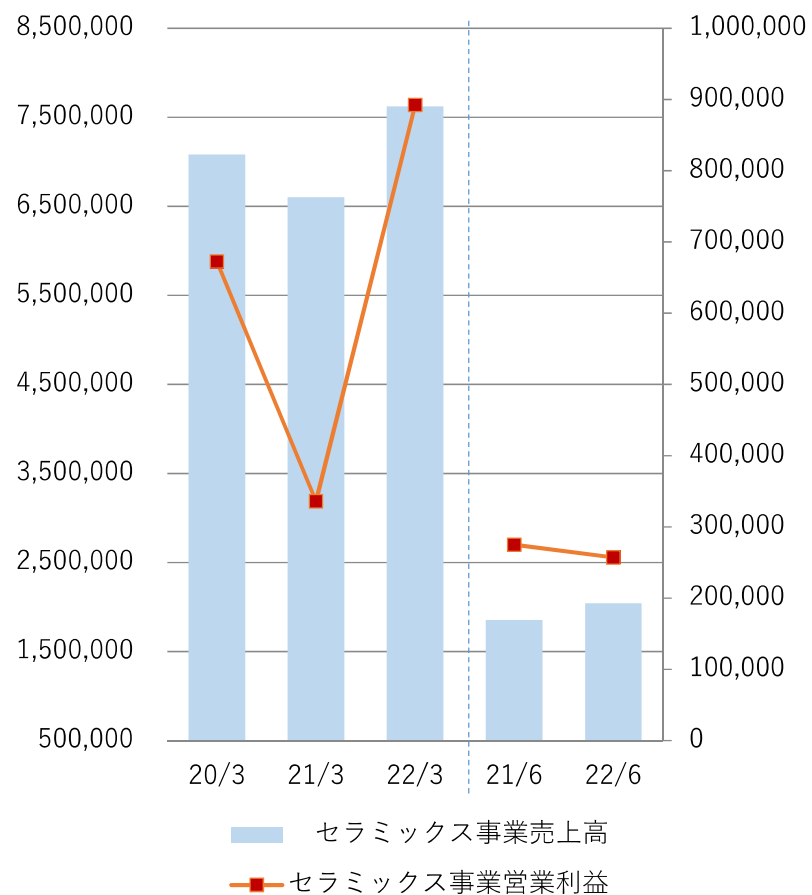


※マーケット別構成比は2022年3月期のデータを使用しております。

# セグメント別業績推移

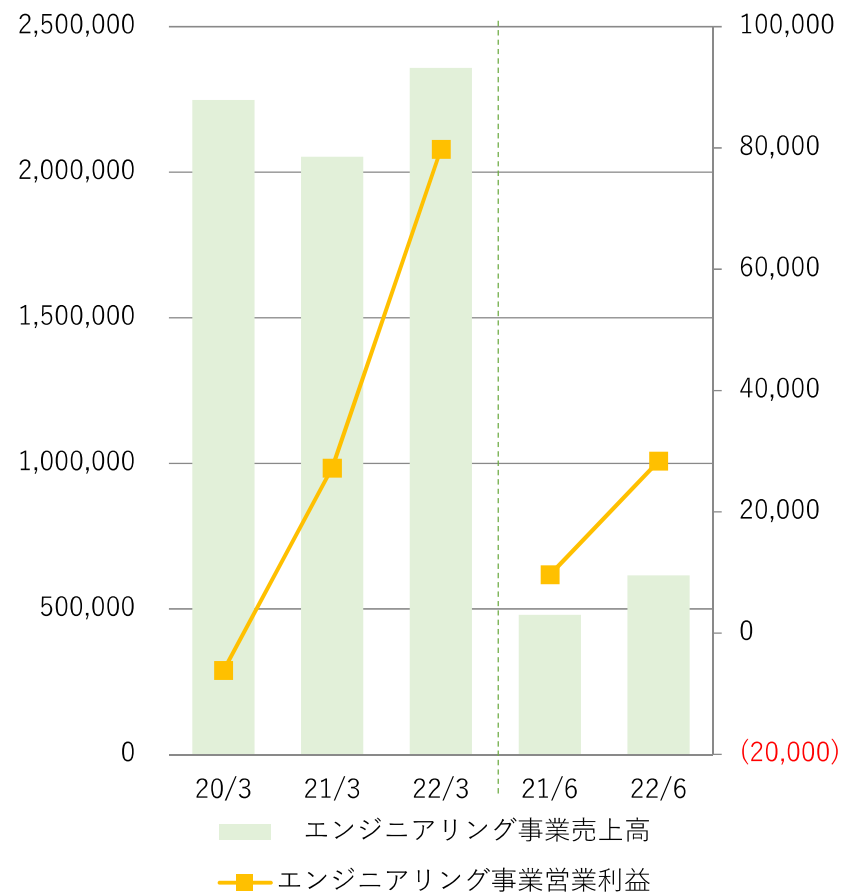
## 【セラミックス事業】

(単位：千円)

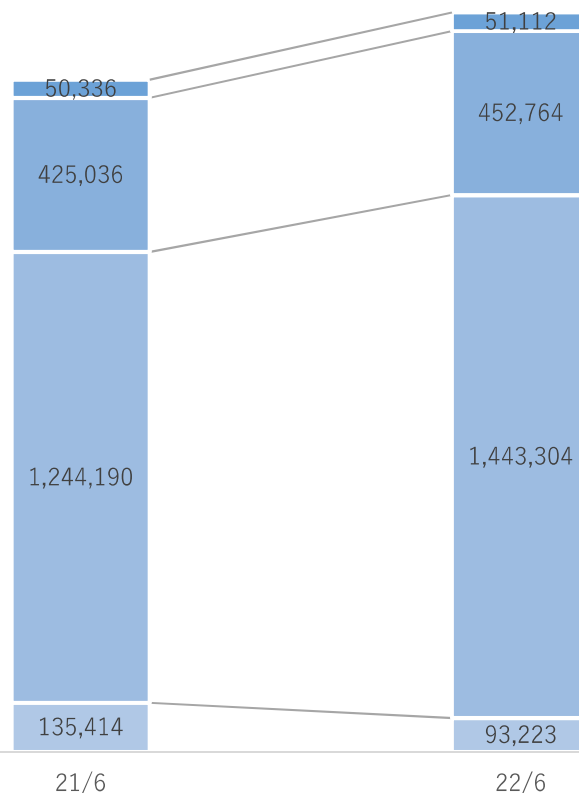


## 【エンジニアリング事業】

(単位：千円)



(単位：千円)



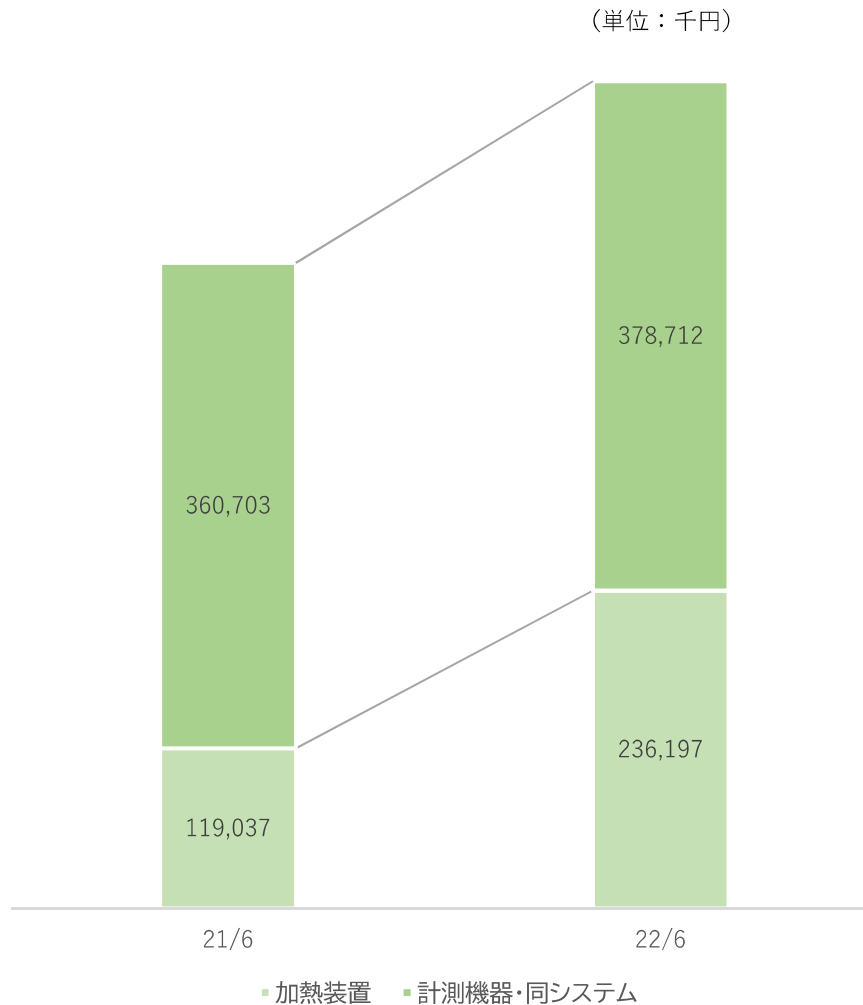
■ 機能性セラミックス
 ■ 耐摩耗セラミックス  
■ 耐熱セラミックス
 ■ 理化学用陶磁器他

・新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立を進める中、ロシア・ウクライナ情勢の悪化や長期化に伴う、より一層の資源・エネルギー価格の高騰などの影響が引き続き懸念材料。

・主力の電子部品業界は好調を維持。増収により工場の稼働率も改善し生産効率は上昇。

・原材料等価格の高騰による影響を受け、製造原価率は悪化。





・新型コロナウイルス感染症の影響により一部制約は残ったが、半導体・電子部品市場の活況を受け、計測機器・加熱装置ともに増収となる。

利益率の高い加熱装置の増収効果が大きく、セグメント利益も大幅増益となる。

・更なる営業効率の追求・利益率の改善に注力。

# 貸借対照表

(単位：千円)	21/6末	22/6末	増減率
流動資産	9,606,685	9,767,511	1.7%
現金預金	3,357,885	3,337,090	△ 0.6%
売掛債権	3,458,294	3,506,422	1.4%
棚卸資産	2,754,251	2,899,338	5.3%
その他	36,253	24,659	△ 32.0%
固定資産	6,927,044	6,657,113	△ 3.9%
有形固定資産	4,858,727	4,762,332	△ 2.0%
無形固定資産	189,198	182,861	△ 3.3%
投資その他	1,879,119	1,711,919	△ 8.9%
資産合計	16,533,730	16,424,624	△ 0.7%

- ・流動資産
  - 売掛債権 増収により増加
  - 棚卸資産 仕掛品が受注増により増加

- ・固定資産
  - 有形固定資産 減価償却により減少
  - 投資その他 投資有価証券評価減により減少

	21/6末	22/6末	増減率
流動負債	3,668,272	3,612,395	△ 1.5%
買掛債務	1,959,486	2,062,974	5.3%
短期借入金	656,892	646,392	△ 1.6%
その他	1,051,894	903,028	△ 14.2%
固定負債	1,078,997	1,045,016	△ 3.1%
長期借入金	756,128	696,030	△ 7.9%
その他	322,869	348,986	8.1%
純資産	11,786,460	11,767,213	△ 0.2%
株主資本	11,258,802	11,333,665	0.7%
評価・差額等	527,657	433,548	△ 17.8%
負債・純資産合計	16,533,730	16,424,624	△ 0.7%

- ・流動負債
  - 買掛債務 増収に伴う仕入増により増加

- ・固定負債
  - 長期借入金 長期借入金の返済により減少
  - その他 役員退職金の支払いにより減少

- ・純資産
  - 評価・差額等 投資有価証券評価減により減少

# キャッシュフロー計算書

(単位：千円)	21/3末	22/3末	増減金額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,354,827	1,639,569	284,741	・営業CF
税引前当期純利益	437,003	1,010,133	573,130	税引前当期純利益 増収による影響で大幅増益
減価償却費	720,614	683,430	△ 37,184	その他
棚卸資産の増減額	8,272	3,021	△ 5,250	増収により売上債権が増加
その他	188,937	△ 57,015	△ 245,953	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 773,570	△ 561,298	212,272	・投資CF
有形固定資産の取得	△ 899,710	△ 530,071	369,638	有形固定資産の取得 主にセラミックス事業生産設備 の新設および更新
その他	126,139	△ 31,227	△ 157,366	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 315,381	△ 396,858	△ 81,476	・財務CF
配当金の支払額	△ 167,401	△ 155,385	12,016	配当金の支払額 配当金13円
その他	△ 147,979	△ 241,472	△ 93,492	
現金等の増減額	265,875	681,413	415,537	
現金等の期末残高	2,676,471	3,357,885	681,413	

※キャッシュフロー計算書は2022年3月期のデータを使用しております。

1. 中長期的な戦略について

2. 2022年3月期(1Q)業績概要

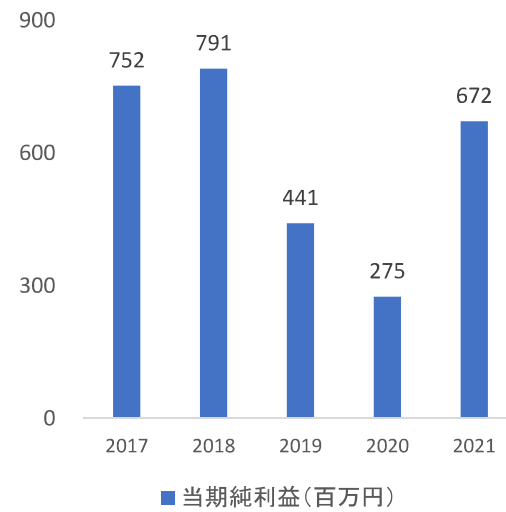
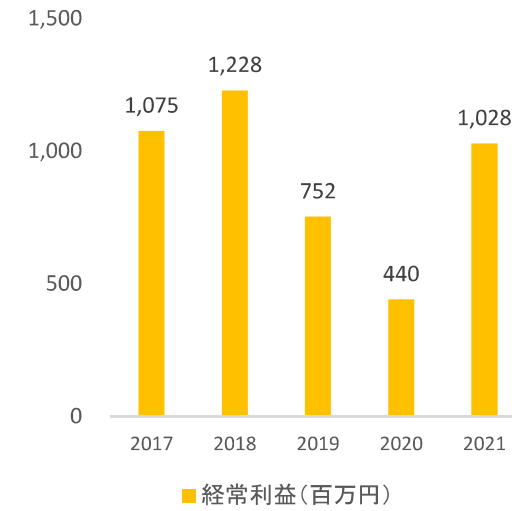
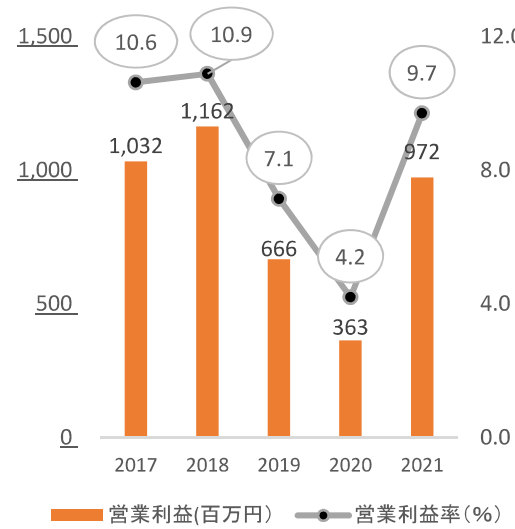
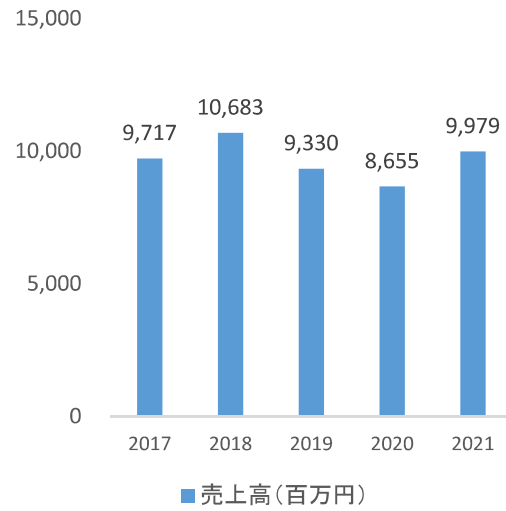
3. 2023年3月期業績予想

4. 事業トピックス

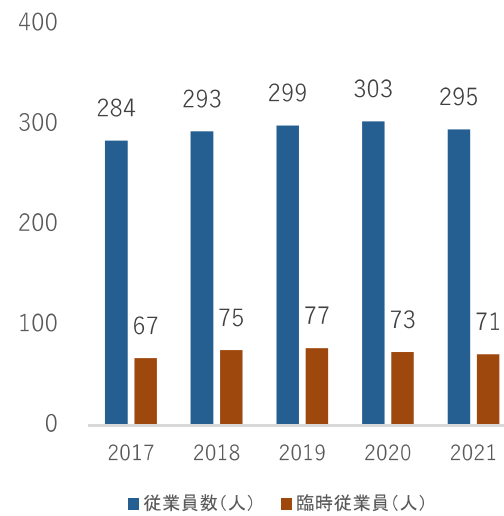
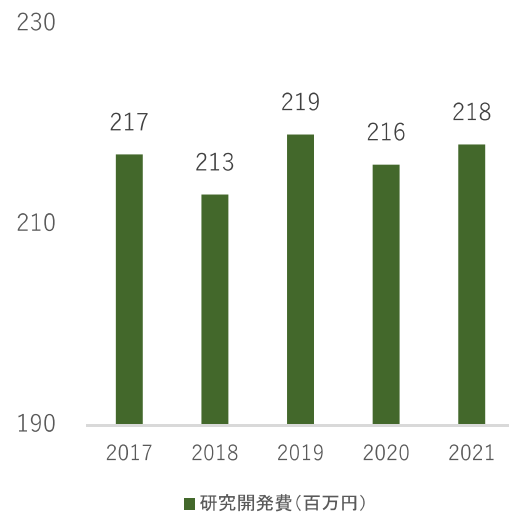
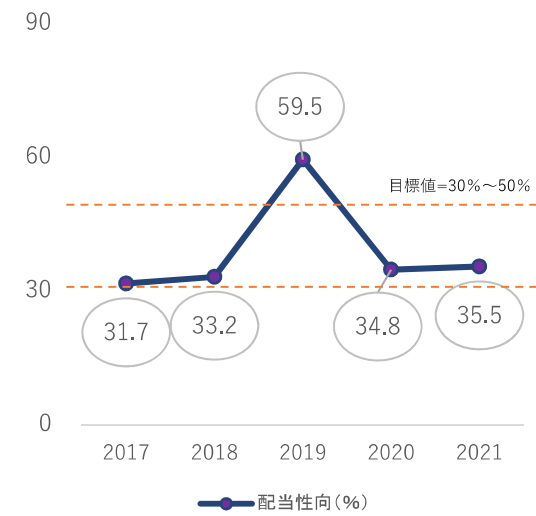
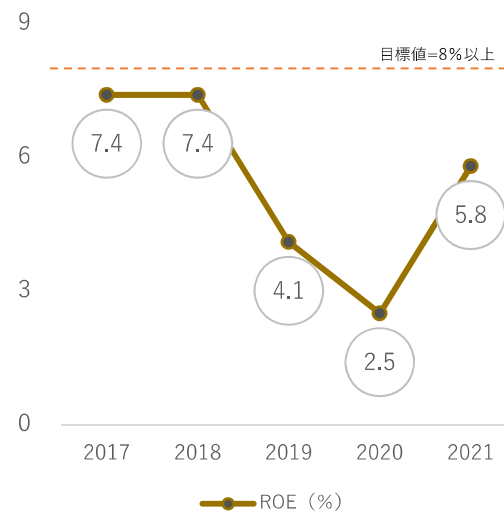
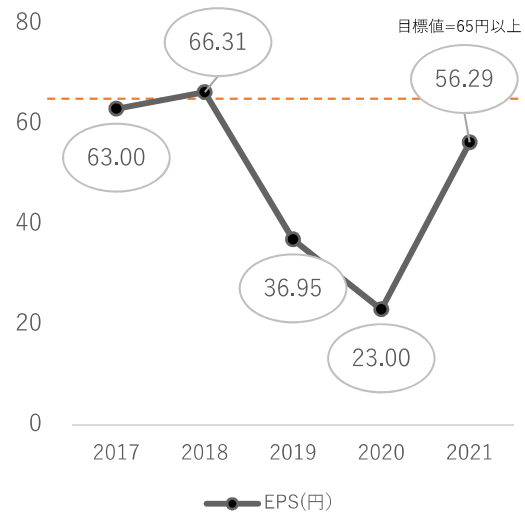
# 2023年3月期業績予想

(単位：千円)	2022年3月期1Q(予測)		2022年3月期1Q(実績)		対予測比	2022年3月期(予測)		対通期比
	金額	売上比	金額	売上比	達成率	金額	売上比	進捗率
売上高	2,500,000		2,655,315		106.2%	10,000,000		26.6%
売上原価	1,962,500	78.5%	2,006,436	75.6%	102.2%	7,850,000	78.5%	25.6%
販売費及び一般管理費	362,500	14.5%	363,260	13.7%	100.2%	1,450,000	14.5%	25.1%
営業利益	175,000	7.0%	285,618	10.8%	163.2%	700,000	7.0%	40.8%
経常利益	180,000	7.2%	312,744	11.8%	173.7%	720,000	7.2%	43.4%
当期純利益	125,000	5.0%	218,088	8.2%	174.5%	500,000	5.0%	43.6%

# 企業データ①



# 企業データ②



1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第1Q)業績概要
3. 2023年3月期業績予想
4. 事業トピックス



## 【医薬用専用グレード YTZ<sup>®</sup>-GHボールの上市】

当社の主力製品でありますYZZ<sup>®</sup>ボールは、厳しい品質管理と高い信頼性から、販売以来多くの分野でご採用を頂き、現在も電子部品分野を中心に高い評価を頂いております。

近年ではAPI（有効成分）の効率的な吸収目的等で、医薬品分野でも微粉碎用途が増加傾向にあり、優れた摩耗特性と品質安定性より当社製品の採用が進んでいます。

今回、医薬品メーカー各社において、更に安心してジルコニアメディアをご使用頂けるよう、専用グレードである『YZZ<sup>®</sup>-GH』ボールを上市致します。当グレードでは、原材料からのトレサビリティを可能にし、GMP省令ガイドラインに対応した品質管理体制の構築を図っております。

ニッカトーの保有するボール製造技術で高性能医薬品、ジェネリック医薬品などの製造に貢献し、社会貢献を目指します。



(注) 本資料に記載いたしております業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分にリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。